

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



“テロリストに乗っ取られた”JR東日本の真実”

「マングローブ」ダイジェスト版 第1回

あの「週刊現代」連載記事が【マングローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

「妖怪と呼ばれた男」 “2004年11月30日”

3日前の27日、男は自らがその建設費の一部をカンパしたという、ポーランド・クラクフにある「日本美術技術センター」の10周年記念式典と「日本語学校」の竣工式に出席するため、成田を発っていた。その男が、ポーランドからドイツ経由で、成田に戻ってくるのが今日、だった。...当初、私が「取材協力者」から得ていた情報は「松崎は30日午前8時40分、フランクフルト空港発ルフトハンザ710便で成田に着く」というものだったが、降りてくる乗客の中に松崎の姿はなかった。松崎から肩すかしを食らったわけである。午前10時過ぎ、携帯電話が鳴った。「取材協力者」からだった。「松崎の野郎、当初予定した便を外してきやがった。次の便だ。間違いなく乗ってくる」...

西岡『松崎さん、いいですか、ハワイのコナ、ヒロ、そしてあなたが持つ品川区のマンション、さらには小川町のマンション、これだけの不動産を足したらね、一億円を超える資産になるでしょう？その原資はどうされたんですか？』

松崎『そんなものは、いくらだってありますよ。自分の土地を売ったり。私が土地いくらで売ったか知っています？』

西岡『じゃあどこの土地をいつ、いくらで売られたのですか？』

松崎『埼玉です、埼玉です』

西岡『じゃあ、埼玉のどこの土地なんですか？それは遺産相続されたものですか？』

そう詰め寄られると、彼は私を避けるようにその歩の向きを変えた。

西岡『確認ですが、その埼玉の土地は遺産相続されたものなんですね？』

松崎『そーです。それも一つです。株もあります。株も、あるんです。それからカンパもあります。何も問題ありません』

自らが購入した別荘や、マンションの原資に「カンパ」を充てて、「何も問題ありません」と開き直る「労働運動家」を私は、彼以外に知らない。そして取材制限区域のデッドラインに差し掛かったとき、最後に私は彼にこう尋ねようとした。

西岡『あなたは今も、現役の革マル派最高幹部ですよ？』

しかし、足早に取材制限区域内に立ち去った松崎を追おうとした私は、空港職員に制止され、それ以上、彼に食い下がることはかなわなかった。この直撃取材後も、私は2年余にわたって彼を追跡し続けたが、松崎本人を取材できたのは後にも先にもこの一度きりだった。そして彼はその後、捜査当局に身柄を拘束されることなく、JR東日本の絶対権力者として君臨し続けたのだった。

【マングローブ（講談社）P.18～P.28】